

平成23年度 「基礎・基本」 定着状況調査結果の分析（英語）

今年度の英語科は、広島市の通過率から 0.5 ポイント下回っている。領域別に比較すると、「話すこと」は 5 ポイント、「書くこと」では 2 ポイントほど広島市の平均通過率を上回ることができた。一方で、「聞くこと」は 3 ポイント、「読むこと」では 0.2 ポイントほど下回る結果となった。しかし、4 領域のバランスはとれている。

2 年生では、1 年時の少人数指導から一斉指導へと変わったため、発表の場が少なくなったことや、声に出す場面で人任せにする生徒も中にはおり、今後の課題である。

しかし、この 4 月から暗唱に力を入れて取り組んでおり、生徒自身も英文を覚えたり、覚えた英文を使って会話するなど、前向きに取り組む姿勢が見られる。

学習意欲を高めるための指導内容の工夫とコミュニケーション活動の場面を増やしていくこと、家庭学習で復習することが今後の英語学習につながっていくと考えられる。

<誤答分析による課題と今後の授業づくり>

○「聞くこと」に関して

リスニング問題は、一定量の英文を聞き、その概念や要点の把握に関する問題での誤答率が高い。今後、教科書のリスニングプラスのページを活用しながら、少しずつ長い英文を聞くことに慣れさせていきたい。

○「読むこと」に関して

まとまりのある英文を読み、その中心事項の把握や会話、話の流れの把握に関して、好成績をマークしている。反面、適切な語を用いた文の組み立ての誤答率が高い。語彙力をあげさせ、英文法の指導を重点的にしていきたい。

○「書くこと」に関して

自分の考えた気持ちが読み手に正しく伝わるように書くことに課題がみられる。習った文法は、文型プリントを配布しノートに何度も書かせることで定着を図りたい。また日々の授業で、授業後の振り返りシートを活用し、授業で習った基本文型を使って自分で英文を書くということに力を入れていきたい。

○「話すこと」に関して

自分の考えや気持ちを相手に伝わるように話すことが弱い。日頃の授業で、言語活動を積極的に取り入れたり、ペアワークをさせたり、暗唱させるなど英語を使う場面を増やしていきたい。